

生活支援コーディネーター（SC）活動報告

令和2年度 12月～2月の報告

【重点目標について】

1 生活支援・介護予防サービスについての住民懇談会、情報交換

- 岡田もくせいハイツ自治会、県営寒川もくせいハイツ第二自治会の定例会議への参加を継続

- ・コロナ話題も多かった。再度の緊急事態宣言発令後は書面開催への変更もあった。
- ・次年度の役員（組長や幹事）を決めていく時期でもあったが、担える人が限られている状況を目の当たりにした。
 - ～順番通り役員を回せない
 - ～限られた少人数で役員を担わざるを得ない状況
 - ～長期入院中で不在の人など、確認をどうするのか
 - ～日本語があまり理解できない外国人の方が数名、役員を担う

- 家で食事をとることが増え、毎日の食事の準備に疲れているという高齢者から、せめて、週に1回でも、作らないで良い時間、お弁当などを届けてもらえるような仕組みがあれば助かるとの声。コロナの影響で苦勞している飲食店がお弁当作りを担ってもらい、それを定期的に乗える、届けることができるような仕組みを作れないか。

- 寒川町シニアクラブ連合会主催の研修会で、車を使った移動の支援について、運営上の注意点などを学ぶ機会を得る。すでに住民主体で活動している団体の方は自身の活動が運営上問題がないかチェックし、必要な改善点などに取り組まれた。

2 住民主体の通いの場を、地域に、少しずつ、増やす

- 新たな通いの場の開始は無かったものの、今後につながる取り組み、話題等があった。
 - ・集まれなくても、顔を見に行く、訪問する。

- ・会食はできなくても、お弁当用意して、帰りに配る。
- ・換気をしながら、声を出すプログラムは避けて、体操などを行う。
- ・助成金も活用しながら、今後、集う形での開催に向けて、空気清浄機等のコロナ対策を準備している。
- ・コロナで、子どもたちも、苦しい。サロンを担うメンバー（高齢者）が、子どもたちへのクリスマスプレゼントを用意。子どもに受け取りに来てもらう形で、サンタクロースが迎え、ひとりひとりに手渡した。
- ・町社協事業でオンライン（Zoom）の活用を企画している。また、県社協の主催でオンライン開催も増えている。地域のサロン等にどのような形でZoomなどが活用していけるのか、情報収集し検討していく。

3 「町内資源マップ」 作成と配布

- 基盤整備推進会議でのご意見等を踏まえ、最終の校正、確認を行っている。

【その他、全体状況について】

- ・町社協の広報紙「社協さむかわ169号」において、「コロナ禍の令和2年を振り返る」という内容を掲載。コロナ禍での地域福祉活動がどのような状況であったか等をまとめた。
- ・再度の緊急事態宣言が発令されたあと、活動自粛の動きが再び増える。また、ボランティア活動をしていた方が、体力や体の不安から、活動を終了、年度末で区切りにするなど言われる方も出てきた。コロナ禍で弱ってしまった地域福祉活動の支援と新たな活動の創出が必要。